

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 001	提案機関名 JA全農かながわ
要望問題名	水稻多収品種の産地品種銘柄採用に向けた試験の継続について
要望問題の内容	【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】  本会の主要取引先である県学校給食会からは、神奈川県産米の使用量は3,500 t／年と要望されている。30年度からは、数量目標のもと行われる価格交渉の結果が、生産者手取りに直結している。現状の供給数量では、目標未達にもかかわらず、今後も開発等で水田面積減少が見込まれるため、大幅な生産量増は見込めない。JAグループで集荷拡大に向けた取り組みは実施しているものの、この状況が続けば、供給数量不足から生産者手取り低下を招き、本県の水田農業衰退に拍車がかかることが想定される。 このような状況のもと、反あたりの収量が多い多収品種の産地品種銘柄等への採用を目指すため、2年度から取り組んでいただいている試験に引き続き取り組んでいただきたい。
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) I-2 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発(2) 作物の高品質・安定生産技術の開発 ア 水稻の高品質・安定生産技術の開発(ハ) 水稻多収品種の栽培特性		
対応の内容等	水稻多収品種につきましては、反あたり収量が多いとされていますが、現在の本県における栽培体系では多収性が確認されておりません。このことから、作期、品種、栽培特性、施肥体系等について検討する必要があります。そこで、令和2年度に取り組んだ水稻多収品種「ほしじるし」の予備試験により得られた栽培特性データに基づき、肥料試験を実施してまいります。		
解決予定年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			